沼津市
明治史料館通信
2003.5.25（季刊 年4回発行）Vol.19 No.1 通巻第73号

「競勢酔虎伝　伊場七郎」
大蘇芳年画、転々堂主人（高畠藍泉）記。（沼津市明治史料館所蔵）
片腕を失いながらも奮戦する箱根戦争での伊庭八郎を描いたもの。
「相州函根の湯本に続き小地獄の名も因ミある修羅の巷の殿たり。只単身にして大軍を討なびかせし勢ひハ二子颪にことならず険阻をつたふ深入に右の腕を切おとされしが弓手に剣を持かへて傷手に屈せぬ働きハ鬼か人かと怪まる。土俗此地を伊場坂と称へて末世の亀鑑とせり」

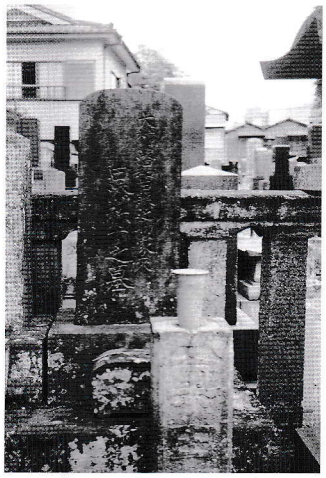
ぬまづ近代史点描 ㊹

艸の戸主人編述「実説摘要 峯の浮雲」

遊撃隊を率い官軍を相手に箱根・箱館で大暴れした旧幕臣の剣豪伊庭八郎は、当時すでに浮世絵の題材になったほか（表紙の写真）、その後も現在にいたるまで小説や時代劇に登場する存在である。池波正太郎の『幕末遊撃隊』や中村彰彦の『遊撃隊始末』といった作品では、主人公になっている。新選組の土方歳三・沖田総司らと同様、女性ファンが多い幕末のヒーローである。

彼は、挙兵後、甲州で説諭され、慶応四年（一八六八）五月の十数日間、沼津で謹慎生活を送った。宿舎となった沼津在・上香貫村の霊山寺には、伊庭と人見寧（勝太郎）が率いる遊撃隊と、志を同じくし行動を共にした上総請西藩主林忠崇（昌之助）とその家臣、脱藩し同志となった岡崎・前橋・勝山・館山・飯野の諸藩士、脱走した駿府勤番組の旧幕臣ら、二百数十名が滞在した。

結局、彼らは一旦は同意した謹慎を破り、再度抗戦を開始し、東へ向かい箱根で戦争を起こすことになる。五月十九日、遊撃隊は、「行がけの駄賃」（三浦徹「続恥か記」『明治学院史資料集　第九集』）とばかり、沼津宿本町の旅館肴屋に滞陣中の官軍軍監（大村藩士和田藤之助）を襲撃した。その後、箱根戦争に破れた遊撃隊が、やがて旧幕府軍艦で蝦夷地を目指し、五稜郭で最後の抵抗を試みるまでの経過は、諸書に譲りたい。



大村藩和田藤之助家来
田添弥十之墓
（沼津市・真楽寺）
奥田家（肴屋）の墓域にある。側面には「慶応四戊辰年五月十九日戦死于沼津駅祠堂金拾円」と彫られている。

さて、ここでは、参考までに、決して目新しい内容を含んでいるとはいえないが、明治期の静岡の地方紙に連載された、箱根戦争に関する記事を紹介してみたい。まずは沼津での官軍軍監襲撃事件を記述した部分である。

（前略）一同はこゝより駿河へ送られて沼津の領主水野藩へ預けられしが同藩にては之を香貫の霊仙寺に幽居せしめて謹慎を表せしむ此の寺にある凡そ十日余りになりぬれど何とも沙汰のなきに一同は頻りに切歯扼腕して慷慨悲憤に堪ざりけん折しも皐月の霖雨は幾日も晴ず降つゞく淋しさに壮夫は転た無事に苦しみてはやる程に元来伊庭八郎は徳川家が七十万石に封ぜられしを不満として代名頭にせられん事を京師に至りて朝廷に哀訴せん事を主張し人見勝太郎は是より箱根の関門を破りて荏戸へ下らんとして兎角に議論合はざりしが人見は一夜更闌て己が率ゆる一番手の兵を纏めて幽居を脱し舟に棹して三島へ出箱根の関を一トに踏破らんと勇み立てぞ進けりトは知ずして伊庭が率ゆる二番手の兵は其の翌る未明に一番手の一人も居ぬに早くも其の情を推せしかバ今更遅々するも詮なしとて狩野川を渉り沼津宿へ出て同所に屯せる大村藩の不意を撃五六人も斬倒し戦の血祭首尾よしと喜びつゝ取て返へして香貫より三艘の小舟に一同乗り移り三島を指して漕出す（畢竟此の時の霖雨甚はだしくて狩野川の水嵩非常に増し往来も川も一面に漫々たる水となりて徒歩すべからざるが故に舟にて行ことなりと知るべし）舟は早くも三島宿へ着しかバ人々は舟を乗捨て先きを争ひ上陸する（後略）

以上引用した記事は、『函右日報』に明治十五年（一八八二）八月九日から九月七日まで九回にわたって連載された「実説摘要　峯の浮雲」（「実説摘要　美根廼憂喜雲」

とも表記）と題する物語風の箱根戦争記の一部（八月十一日掲載）である。

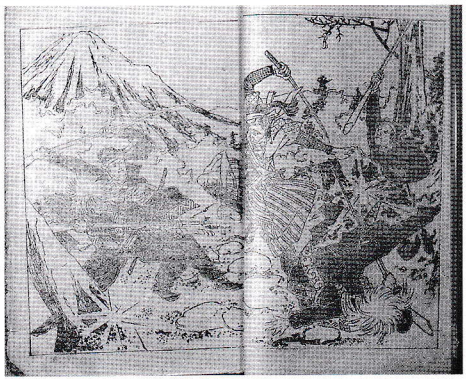
また、箱根での伊庭八郎の奮戦シーンは、「伊庭ハ左の前腕を斬れて掌もろともに手先ハ大地へ落て血ハ瀧つ瀬さるを少しも意にせず四方八面に斬廻る無双の働は最目覚しかりし程に折しモヒウと響き来る銃丸に右の太股打抜れては流石に猛き勇士も何かハ溜らん後に倒れしを」云々と描写されている（八月十九日掲載）。

「昨日の淵は今日の瀬と変る浮世のならひと雖ど明治戊辰の変りは又著しとや云ん」という文句で始まるこの物語は、脱走し遊撃隊に加わった駿府勤番伊藤貞信（久三郎・恒三郎）を「本篇の張本」とするとしているが、連載がわずか九回で終わっているため、事件の経過をたどるだけで、必ずしも伊東を主人公にすえたストーリーにはなっていないようである。「張本」とは、単に素材の提供者ということかもしれない。ちなみに、伊藤恒三郎が箱根戦争に参加した実在の人物であることは他の史料から明らかである（『静岡県史　資料編16近現代一』九頁）。

筆者はペンネーム「艸の戸主人」なる人物となっている。彼は、最初戊辰時に群馬県に帰農し、明治三年冬に静岡藩に復籍した旧幕臣であることが自らの告白で判明するが（九月七日掲載分）、「編述者曰く此の物語りは右の修羅場を斬抜伊庭を擁して走る時の殿戦まで せし人の直話なれど余が筆の鈍くして十分一をだも写す能はざるは遺憾の極と云ふべし」（八月十九日掲載分）とあるように、自身は箱根戦争参加者ではなかったようだ。つまり、この連載記事は、何人かの戦争経験者からの聞き取りをもとに、記述されたと考えられる。維新から十四年を経過した当時、地域レベルでも新聞の読み物として戊辰戦争が取り上げられるようになったのである。

短い文章であり、また事実経過の紹介に重きを置いているため、賊軍の汚名返上を意図したり、旧幕府側の正義を強調するなど特定の主張を盛り込んだものにはなっていない。しかし、「往時を回想ばすべて夢の如く幻の如くなるは浮世の中の憂世とて是非なき次第なれ去るが中にも今より十五年前なる明治戊辰の変こそ実に著しとや云はん」（九月七日分掲載）という記述の背後からは、維新の敗者としての旧幕臣の感慨が明白に読み取れる。

（樋口雄彦）



箱根戦争で奮戦する伊庭八郎
（『江戸の武士伊庭想太郎』）

人見　寧
（『府県長官銘々伝』明治14年）
伊庭八郎とともに遊撃隊を率いた人見寧（勝太郎）は、後に茨城県令をつとめた。

小柳津要人
（永井菊枝氏寄贈）
脱藩して遊撃隊の行動に参加した岡崎藩士。箱館五稜郭で降伏後、沼津に来て沼津兵学校教授乙骨太郎乙に師事。後に書店の丸善経営者となる。

飯島半十郎
（飯島士郎氏所蔵）
遊撃隊の一員。虚心と号し、浮世絵研究家として知られる。弟の飯島正十郎は沼津兵学校資業生。

お知らせ欄

◎冬の企画展の終了

平成14年12月1日から平成15年2月27日まで開催していた企画展「地図が語る沼津の歩み」は無事終了いたしました。

また、1月26日に開催した歴史講演会「地図から見た沼津の変遷」（講師　加藤雅功氏）にも93名の受講者がありました。

▶歴史講演会の様子

◎沼津市明治史料館史料目録31、32の刊行

史料目録31『獅子浜植松家・口野小池家文書目録』（B5版・108ページ、頒価五〇〇円）、史料目録32『足保区有文書目録』（B5版・186ページ、頒価五〇〇円）を刊行しました。いずれも当館で所蔵・保管する文書資料の目録です。史料の検索にご利用下さい。

◎『沼津市博物館紀要』27の刊行

体　裁：B5版、七二ページ
頒　価：五〇〇円
内　容：神津武男「新出浄瑠璃本『和泉式部軒端梅』の紹介と翻刻―その他、明和前期の江戸人形浄瑠璃新出資料の紹介―」、大庭晃「香貫用水の移り変わり」、樋口雄彦「沼津兵学校関係人物履歴集成　その二」、同「沼津兵学校附属小学校教授永井直方の日記　その三」、上野尚美「昭和戦前期の遊覧汽船「沼津丸」関係史料」

◎平成14年度館蔵資料の出版物への写真・資料提供（未刊を含む）

『写真集　沼津今昔100景』（羽衣出版）、『再現日本史』第84号（講談社）、『清水町史通史編上巻』、『静岡県歴史年表』（静岡新聞社）、『沼津市史史料編近世3』、『沼津市史絵図集』（仮題）

◎平成14年度館蔵資料の展示等貸出・提供先

沼津市歴史民俗資料館「石は語る―祈りと想い―」展（7月～9月）、市役所街路課「川廓通り線開通式」歴史パネル展（7月）、横浜市歴史博物館「くらしを集める　くらしを探る　屋根裏の博物館」展（10月～11月）、市立市川歴史博物館「幕末の市川―記録する人々―」展（3月～5月）

◎平成14年度の受贈資料（受贈順）

最新大日本鉄道地図等（森裕子様）、有産社文書（大川規子様）、東海道線のダイヤグラム等（羽田勲様）、小・中学校教科書（金刺正明様）、岳陽少年団歌（杉山泰司様）、電波探信儀受信機用真空管等（横浜旧軍無線通信資料館様）、軍事郵便関係書籍等（上杉有様）、金岡村略図（後藤寿直様）、オルガン（飯田さと子様）、岳陽少年団の木太刀等（水野秀和様、昭和26年ごろの写真（秋元時男様）、能楽本（高橋伊佐夫様）、連合軍指令文書等（大平小学校様）、大日本国防婦人会発会式記念皿（武井吉雄様）、路面電車停留所標識・方向板（飯島正資様）、書籍等（高田篤三様）、報知新聞（菊地広和様）、沼津市全図等（加藤雅功様）、渡辺水哉写真・寺内正毅書状（渡辺義昭様）

◎平成14年度の受託資料（受託順）

久連村絵図（西浦久連自治会様）、住吉町大野家文書（大野寛良様）

◎館職員の人事異動について

4月1日付、2日付の人事異動により、館長樋口勲が退職、後任に名倉忠興が、学芸員上野尚美が歴史民俗資料館に異動、後任に木口亮が、事務補助員瀬川アツ子が退職、後任に石田ゆかりが着任しました。今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

沼津市明治史料館通信　第73号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂三七二―一
電　話　〇五五-九二三-三三三五
FAX　〇五五-九二五-三〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm